

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行：関西学生サッカー連盟
2009年4月18日発行 第1号



第87回関西学生サッカーリーグ
2009年4月18日(土) 第2節

関西学生サッカーリーグ開幕！！ 第2節の行方は！？



開幕ゴールを決めたのは、この男！
阪南大学FW 11木原正和

Photo:フリーライター久住真穂

2009年4月11日、ついに関西学生サッカーリーグが開幕した。昨年度年間王者の阪南大が開幕戦に登場し、エース木原のドリブルシュートで快勝。華麗な幕開けとなった。また、シーズン前から好調の同大が5-1と圧倒的な力を見せた。その他の試合は全て引き分けと、第2節も混戦必至だ。

@高槻市立総合スポーツセンター

11:30 Kick off 【同大-桃山大】同大は苦手とする桃山大を迎え撃つ。第1節では出場しなかったM⑧荒堀が出れば、さらに脅威を増すだろう。桃山大の松本監督は前節試合後に「精度を高めたい」と話した。好調同大相手に勝ち点3を掴み取ることが出来るか。

14:00 Kick off 【阪南大-大体大】「個々に身体能力の高い選手がいるので要注意」と阪南大、須佐徹太郎監督は大体大のダイナミックな展開を警戒。対する大体大は「(びわこ大戦は)1部のスピードにとまどいながらも何とか対応できた。攻撃では、ずっと教えてきた、どこで速さを使い、どこでゆっくりするかがうまくかみ合ってくれば良いと思う(北村公紀ヘッドコーチ)」と語り、阪南大に挑む。

@高槻市立萩谷総合公園サッカー場

11:30 Kick off 【関西大-大教大】第1節では「考えている攻めのサッカーが続かなかった。先制してからもう一押しが欲しい。」と関西大・島岡監督。「後半の勝ち越しの後も攻撃面での余裕がないのでDFもたつく。」とも。次は修正して臨む。格上相手に引き分けた大教大。「勝ちたかったが、上位に失点なしの勝点1は大きい。」と入口豊監督。関西大戦では⑩三好、⑨森原に高さのある41.友永のFWで何とか得点を取りたい。

14:00 Kick off 【びわこ大-大産大】びわこ大、望月聡監督は「(大体大戦は)ボールと人を意図的に動かそうとしたが、一つひとつが遅くて次も遅くなっていた。」と前節終了後。そこを改善し、「相手にとってつかみ所のないサッカー(望月監督)」が出来るか。初戦、前年度チャンピオンに0-1の大産大、櫛引実監督は「個人能力の差はあったが、やってきたことが全く通用しないわけではじゃないと分かった。」と振り返る。「今後はこれをどれだけ長い時間保てるかにかかってくる(櫛引監督)」。

@三木総合防災公園陸上競技場

11:30 Kick off 【京産大-大院大】京産大は「残り15分、守れるような戦い方を身につけない」と古井監督が話すように、集中力がキープポイントとなる。対する大院大は、初戦の大敗を受け「やり直さないといけない。」と藤原義三監督。まずは、無失点で抑えたい。

14:00 Kick off 【関学大-立命大】第1節を引き分けで終えた関学大。「初戦は難しい。後半半ば過ぎで決められなければ勝てない。阿部ら2年生が成長してきているので、次はもう少し頑張らせる。」と、加茂周監督。一方の立命大。「2-2の結果を重視して。落ち着いてやれば攻守とももっとやれるはずだが。ヌルさが目立つ。」と米田隆監督。攻守の軸・⑧福本のケガが心配。彼次第で攻守の大きな変化を求められるかも。

阪南大学 vs 大阪産業大学

開幕戦は、昨年度通年制開催での初代チャンピオンとなった阪南大と、2部Bブロックを無敗でぶっちぎり優勝し、5年ぶりの1部復帰を果たした大産大の対戦。開始早々、給水する選手が目立つほどの4月とは思えない暑さと不慣れな深い芝生のためか、集中を欠きミスが多い展開。それでもボールを支配する阪南大は25分、MF⑥井手口正昭のクサビをFW⑩棚橋雄介がスルー、受けたFW⑪木原正和が巧みなターンで大産大DFをかわして鮮やかに叩き込み先制した。その後も押し込まれる展開が続く大産大は、パスをつなごうとするため、逆に高い位置で奪われピンチを招くが、阪南大もシュートの精度を欠き追加点を挙げられない。

後半、大産大MF⑩橘章斗のパスカットからの惜しいシュートはワクを外れ、阪南大もMF⑭東浩史のループや木原のドリブルシュートで大産大ゴールを脅かすがこれも決まらない。85分、大産大のビッグチャンス、MF⑦宮本健二のシュートもGK①竹重安希彦がファインセーブでチームを救う。阪南大は「決めるところを決めない」という苦しい試合ながら1-0という「必勝パターン」で連覇に向けスタートを切った。

(サッカーライター 貞永 晃二)

阪南大 1 - 0 大産大

4月11日(土)12:00 Kick off
@大阪長居スタジアム

◆得点◆

阪南大 25分 11 木原 正和
(10 棚橋 雄介・6 井手口 正昭)

びわこ成蹊スポーツ大学 vs 大阪体育大学

びわこ大 1 - 1 大体大

4月11日(土)14:30 Kick off
@大阪長居スタジアム

◆得点◆

大体大 74分 9 松本 良太(11 山本 翔一)
びわこ大 82分 30 原ノ園 大将

「スポーツ」と「体育」とその名称は違うものの、ライバル関係にある両大学。昨季リーグ準優勝のびわこ大と、2部ながらも総理大臣杯優勝という快挙を成し遂げた大体大の対戦。最初のチャンスはびわこ大。MF⑨瀬古朋広がオフサイドぎりぎりで飛び出して放ったシュートを大体大GK①松井智広がファインセーブ。大体大もDF②前田涼太郎の長いドリブルから打ったシュートにびわこ大GK①林将志が立ちはだかる。これ以外はともにミスが多く決め手に欠けた前半となった。

後半、試合は持ち前のスピードで相手DFのウラを突き合う展開となる。びわこ大FW⑩澤西宏典の好シュートをGKが阻んだ直後の68分、大体大は2枚の警告で退場者を出してしまう。しかし74分、不利に思われた大体大のMF⑨松本良太がびわこ大DF2人をかわして鮮やかなゴールを決めて先制するからサッカーは面白い。そしてびわこ大は82分、昨年はチーム登録外だったというFW 30 原ノ園大将が相手のミスを拾って「GKの重心を見て逆に打った(原ノ園)」というクールな同点ゴール。その後勝利を求めて攻め合った両チームだが、決定力を欠き結局勝ち点1ずつを分け合うことになった。

(サッカーライター 貞永 晃二)

関西学院大学 vs 大阪教育大学

開幕戦の難しさをにじませたのが関学大。前半から速い動きとパス回しで大教大を圧した。左・⑩梶川諒太、右・⑦渡辺毅仁の両サイドからの再三のチャンスメイクもあったが、ゴール前で決め手がなかった。ポゼッションでは完全に優位に立ちながら決定的なチャンスに結びつかなかったのは、ちょっとしたタイミングのずれで、これはゲームの消化で改善されるものだろうが、白星スタートが出来なかったのは痛い。しかしDF③津田真吾、MF⑩阿部浩之、②桑野裕士、梶川ら新2年生が着実に成長を遂げているのは頼もしい。

大教大はよく戦ったというべきだろう。力上位の関学大に無失点の勝点1はこれからのゲームの励みになる。前半は前線の数不足とメーカー不在で攻めに強さがなかったが、後半は改善され、鋭さと幅も出た。特に「守って、カウンター」の基本どおり、後半20分過ぎから関学大を押し込んだ猛攻は目を見張らせた。守りの面でも中盤でのプレスを実に、ゴール前では体を張ったプレーで、関学大に得点を許さなかった。

(関西学連)

関学大 0 - 0 大教大

4月12日(日)11:30 Kick off
@鶴見緑地球技場

第87回関西学生サッカーリーグ GAME RESULT 2009年4月11日(土)・4月12日(日)第1節



関西大学 vs 立命館大学

クリーンシュート2本の関西大。立命大はPK2本の2点。しかも立命大の2点目はロスタイムに入ってから。結果はドローでも両校の感覚は天と地ほどの違いがあったろう。島岡健太新監督で“新生関大”を標榜し、V候補の呼び声高い関西大にすれば歯がゆい結果となった。これもまた初戦の落とし穴か。関西大はパスの展開はシンプルに、しかし緩急をつけて相手DFを追い込む攻めは鋭い。2点ともゴール前で左右に展開して㊟西口大輔が決めた。しかし、その攻めに持続性がなかった。DFもコンパクトに相手の攻めをつぶす策だが、まだまとまりを欠く。与えたPKは、DFのまとまり、約束事の不徹底から生まれたものだ。

立命大は走り込みの成果でスタミナ面では不足はないが、攻撃面での変化が単調で、相手に読まれると苦しい。サイドを使える能力は持っているの、さらに幅をつければ得点チャンスはさらに広がってくる。しかし2トップのコンビ、中盤の㊟篠原翔ら2年生が奔放な動きでチームに活力を与えているのは楽しみ十分。

(関西学連)

関西大 2 - 2 立命大

4月12日(日)14:00 Kick off
@ 鶴見緑地球技場 関西大

◆得点◆

関西大 21分 19 西口 大輔(8 藤澤 典隆)
立命大 66分 13 藤田 浩平
関西大 70分 19 西口 大輔
立命大 89分 24 加藤 恒平

京都産業大学 vs 桃山学院大学

京産大 2 - 2 桃山大

4月12日(日)11:30 Kick off
@ 山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場

◆得点◆

京産大 9分 13 中武 真哉(16 桑田 康平)
京産大 20分 7 稲本 悠人(16 桑田 康平)
桃山大 88分 2 中山 修志
桃山大 89分 11 斎藤 達也
(19 味岡 克典・28 加藤 潤)

昨年、中位に甘んじた両者の対戦。京産大は2人、桃山大が3人の新入生をスタメン起用し、フレッシュなメンバーが揃った戦いとなった。

先に口火を切ったのは京産大。MF㊟中武真哉が、相手GKの頭上を越える華麗なキックで先制点を挙げると、20分にはMF㊟稲本悠人の強烈なミドルシュートが決まる。早い時間で2点のリードを許した桃山大は反撃の糸口をつかめず、その後も京産大が試合を支配していた。このまま試合終了に思われた88分、直接FKのチャンスを得た桃山大のキッカーは、この日サイド突破が光ったDF㊟中山修志。彼のキックはそのままゴールネットへと突き刺さった。さらにラストワンプレーで、交代で入ったFW㊟斎藤達也が押し込み同点。京産大は5分の間に2点追いつかれ、堅さの残る初戦で貴重な勝ち点1を分け合った。京産大・古井裕之監督は「残念ですが、ボールを奪ってから仕掛けなど新人2人は良い仕事をしてくれた。」と、収穫を口にした。一方の桃山大にとっては、土壇場で貴重な勝ち点1を掴んだ格好だ。「去年のメンバーから半分抜けたので、正直ホッとしました。」と松本直也監督。次節へ向け、弾みをつけた。

(フリーライター 久住 真徳)

同志社大学 vs 大阪学院大学

開幕初戦、5-1と予想外のゴールラッシュで同大が勝利を収めた。

先制点を奪ったのは、大院大。体も強く足元のあるFW㊟岡村和哉を中心に仕掛けた。そして25分、FW 53 四ッ浦寛康が相手のクリアミスに詰め、待望の先制点が生まれる。しかし、ここから同大が底力を見せる。前半34分、FW 22 市川俊治朗がGKと1対1の場面で一度外したボールを拾いに行きシュート。彼のあきらめないゴールがチームを躍動させた。このゴールを皮切りに、得点劇が繰り広げられる。市川、FW㊟角島康介のコンビが機能。市川が下がり気味で、角島がスペースへ飛び出す形は京都選手権から好調で、2人で3ゴールを上げる。また交代で入ったFW㊟松田純也も2得点と「役割を果たしてくれた(同大・望月慎之監督)」。逆転圧勝と良い形でスタートを切った。Jリーグ強化指定チームの川崎フロンターレに合流しているため絶対的エースMF㊟楠神順平を欠く同大だったが、新たな選手の台頭など選手層の強化が図れた。大院大は、「これほどまでの大差は、ほとんど経験がない。3点目を決められた時点で、集中力が切れてしまった。」と肩を落とした。まずは守備の建て直しを図りたい。

(フリーライター 久住 真徳)

同大 5 - 1 大院大

4月12日(日)14:00 Kick off
@ 山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場

◆得点◆

大院大 25分 53 四ッ浦 寛康
同大 34分 22 市川 俊治朗
同大 66分 9 角島 康介(16 徳丸 敬紘)
同大 70分 22 市川 俊治朗(10 北森 陽介)
同大 85分 13 松田 純也(16 徳丸 敬紘)
同大 89分 13 松田 純也(22 市川 俊治朗)